

【広尾町】 校務 DX 計画

文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に示されている教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するために、次の事項を重点的に推進する。

1. 校務系・学習系ネットワークの統合に関する調査研究

教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・町情報管理担当・関係業者と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備に向けた調査研究を進める。

2. クラウドツールの活用

グループウェアや学校向け連絡ソフトウェアなどの汎用クラウドツールを活用し、児童生徒と教職員間、学校内での教職員同士の連携、教職員と保護者間の連絡をデジタル化するための、調査研究を行う。グループウェアの活用により、会議等資料のペーパーレス化、コミュニケーションの迅速化を図る。随時、学校現場における課題やニーズ等の情報共有を図り、校務の効率化に取り組む。

3. 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務データなど、様々なデータを収集・可視化・管理できるツールの導入等、利活用に向けた検討を行う。

さらに、ツールを導入する上で、不合理な手入力作業を整理・改善策を検討し、教職員の負担軽減を図る。

4. FAX・押印の原則廃止

FAX による送付や押印を求める制度・慣行を見直し、災害やネットワークの不具合時など FAX の方が電子メール等より効率的である場合を除き、原則廃止に向けて関係機関等への働きかけを行う。

5. 校務系ネットワーク・システム等の現状分析と、望ましい校務の在り方に関する検討

校務システムの更改のタイミングにおいてスムーズに次世代の校務システムへと移行できるよう、校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する調査研究・情報収集に努める。検討の際、令和 5 年度より開始している「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況に留意する。